

Oncology News

NSCLCの脳転移に対するペムブロリズマブの効果／Lancet Oncol

ペムブロリズマブが非小細胞肺癌（NSCLC）の脳転移に有効である可能性が示された。米国・イェール大学医学大学院の Sarah B. Goldberg 氏らは、NSCLC または悪性黒色腫の患者を対象としたペムブロリズマブの非盲検第 II 相試験において、脳転移病変に対する抗 PD-1 抗体の効果を検討しており、これまでに中間解析結果を報告している。今回、同試験の NSCLC コホートを対象とした最新の解析を行い、ペムブロリズマブは、PD-L1 発現が 1% 以上の IV 期 NSCLC 患者における脳転移病変に対して有効であり、安全性も確認されたことを報告した。著者は、「NSCLC による中枢神経系（CNS）疾患に対する免疫療法のさらなる検討が必要である」とまとめている。Lancet Oncology 誌 2020 年 5 月号掲載の報告。

研究グループは、18 歳以上の IV 期 NSCLC で、1 つ以上の脳転移（5～20mm 大）を有し、脳転移巣未治療または放射線療法後に増悪した患者を対象に、ペムブロリズマブ 10mg/kg を 2 週間間隔で静脈内投与した。

CNS 疾患の評価には、mRECIST を用いた。また、患者を PD-L1 発現が 1% 以上（コホート 1）、PD-L1 発現が 1% 未満または評価不能（コホート 2）の 2 つのコホートに分けた。

主要評価項目は、脳転移病変の奏効率（部分奏効または完全奏効を達成した患者の割合）であった。治療を受けたすべての患者を有効性および安全性の解析対象とした。

主な結果は以下のとおり。

- ・ 2014 年 3 月 31 日～2018 年 5 月 21 日までの間に 42 例が治療を受けた。
- ・ 追跡期間中央値 8.3 ヶ月において、脳転移病変の奏効が得られた患者は、コホート 1 で 37 例中 11 例（奏効率 29.7%、95%信頼区間[CI]：15.9～47.0）、コホート 2 では 0 例であった。
- ・ Grade3～4 の治療関連有害事象は、肺臓炎が 2 例、全身症状、大腸炎、副腎機能障害、高血糖および低カリウム血症が各 1 例であった。
- ・ 重篤な治療関連有害事象は 42 例中 6 例（14%）に発現し、肺臓炎が 2 例、急性腎障害、大腸炎、低カリウム血症および副腎機能障害が各 1 例であった。
- ・ 治療に関連した死亡は認められなかった。

< 関連文献 >

Goldberg SB, et al. Lancet Oncol. 2020;21:655-663.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/32251621/>

当コンテンツは、株式会社ケアネットの監修により、がんに関連する重要論文を選別し、それらを簡潔に要約したニュースレターです。当社の見解を述べるものではなく、承認外使用を推奨するものではありません。内容の詳細については元文献・元ニュースを、製品に関する情報は各製品の最新の添付文書をご確認いただきますようお願いいたします。

尚、当コンテンツに掲載されている記事等に係る所有権、著作権その他一切の権利は、ニプロ株式会社、株式会社ケアネット、コンテンツ制作者等の著作権者が保有しています。